

令和 7(2025)年度 沖縄国際大学社会人特別入学者選抜試験
人間福祉学科心理カウンセリング専攻 出題意図

【出題の意図】

今回の小論文試験問題の意図は、心理カウンセリング専攻のアドミッション・ポリシーの中でも特に1.にあるように、心理学という学問が人間の「こころと行動」や「人と人とのつながり」について科学的視点から学ぶものであるということについてどの程度理解しているかを評価することです。

心理学の研究が実験や調査、観察などの方法を用いて数量的なデータを収集し、それを統計的手法で分析し、結果を考察するという科学的視点・方法を基になされるということがある程度理解できているかどうかを見ています。心理学という学問を学ぶ際に統計学のような分野も学ぶことになるのですが、そのような理解がない場合、学びたかったこととのミスマッチが起こる可能性があります。そのようなことが起らないようにするという意味でも、心理学がどのような学問だと理解しているのかを確認する意図でこの問題を出題しました。

令和 7(2025)年度 沖縄国際大学社会人特別入学者選抜試験 人間福祉学科社会福祉専攻 出題意図

【出題の意図】

今回の小論文試験問題は、社会福祉専攻のアドミッション・ポリシーの試験評価の指標「1.社会福祉の専門的な役割等について、的確に説明することができる人物か」、「2.大学で学びたいことと自分自身の将来像とのつながりについて、的確に説明できる人物か」、「3.国内外の社会問題、生活問題等について強く関心をもつ人物か」、「4.社会参加および社会貢献に対して、意欲や積極的な姿勢をもつ人物か」及び、「5.社会福祉を科学的に学ぶ(他者の声を聞き取り、要点を整理し、記述する)ための基礎的学力を有する人物か」を確認することを意図した出題となっています。

とくに、この設問では、受験者が生活保護制度に関する地域課題を理解し、自身の社会人経験を通じて具体的な対策を考察できる力を測ることを出題意図としています。沖縄県特有の福祉課題に対して、実践的かつ現実的な視点から対応策を提案することで、課題解決への主体性や応用力、地域福祉への関心の深さを評価します。